議案別議決権行使状況(外国株式)

<2023年7月～2024年6月総会>

会社提案		賛成	反対	棄権	白紙委任	合計	反対比率	反対比率 前年比
会社機関に関する議案	取締役の選解任	11,475	804	0	0	12,279	6.5%	0.3%
	監査役の選解任	458	53	0	0	511	10.4%	-1.7%
	会計監査人の選解任	1,673	11	0	0	1,684	0.7%	0.3%
役員報酬に関する議案	役員報酬(*1)	3,078	588	0	0	3,666	16.0%	-1.7%
	退任役員の退職慰労金の支給	17	4	0	0	21	19.0%	-11.0%
資本政策に関する議案 (定款に関する議案を除く)	剰余金の処分	1,068	3	0	0	1,071	0.3%	-0.1%
	組織再編関連(*2)	168	4	0	0	172	2.3%	-1.0%
	買収防衛策の導入・更新・廃止	6	2	0	0	8	25.0%	3.6%
	その他 資本政策に関する議案 (*3)	2,469	364	0	0	2,833	12.8%	-0.5%
定款に関する議案		596	286	0	0	882	32.4%	7.0%
その他の議案		5,497	751	2	0	6,250	12.0%	2.6%
合計		26,505	2,870	2	0	29,377	9.8%	0.5%

(*1) 役員報酬額改定、ストックオプションの発行、業績連動型報酬制度の導入・改訂、役員賞与等

(*2) 合併、営業譲渡・譲受、株式交換、株式移転、会社分割等

(*3) 自己株式取得、法定準備金減少、第三者割当増資、資本減少、株式併合等

株主提案		賛成	反対	棄権	白紙委任	合計	反対比率	反対比率 前年比
合計		935	483	0	0	1,418	34.1%	1.6%

(注) 棄権は、株主の属性を問う議案等で、棄権の入力を求められたものです。

【議決権行使の概況】

・外国株式における個別議案の判断にあたっては、国ごとのガバナンス慣行を踏まえたうえで、企業価値の長期的拡大の観点から、慎重に検討を行います。

・2023年7月から2024年6月に開催された株主総会の数は2,748総会、議案数は合計30,795件あり、会社提出議案29,377件に対して賛成26,505件、反対2,870件、棄権2件、株主提出議案1,418件に対して賛成935件、反対483件の議決権行使を行いました。

・会社提案議案合計の反対比率は9.8%(前年比+0.5%)と、前年実績と比べほぼ横ばいでした。中国において、取締役会規程等の変更に係る提案で提案内容の詳細開示が不十分であったことから「その他議案」での反対比率は上昇しましたが、会社提案全体の反対比率への影響は軽微に留まりました。

・株主提案議案合計の反対比率は34.1%(前年比+1.6%)と、前年実績と比べわずかに上昇しました。気候変動や、環境・社会問題に対する企業の開示・取り組みが着実に進展している一方、過度に経営の裁量を制約し必ずしも企業価値向上につながらないと思われる事項まで株主提案として上程されることが増えたため、反対する議案が増加しました。また、ESG推進に疑義を唱える、いわゆる「反ESG」議案が引き続き増加しており、当該議案に反対したことも、反対比率を高めました。

(代表事例)

・議案別の行使結果は上記の通りですが、その判断に至った考え方について、代表的な事例をご紹介します。

(1) AI利用に係る報告、及びガイドラインの開示を求める株主提案(Apple Inc.)

同社に対し、事業活動におけるAI使用に関する報告と、AI技術使用に関して採用した倫理指針の開示を求める株主提案が上程されました。

同社は、AIリスク管理の具体的な原則やガイドラインを公表しておらず、同業他社と比較して情報開示において後れを取っている状況であったため、他社と同様のアプローチをとるよう働きかけを実施いたしました。

同社が他社の開示状況を把握している点は確認したものの、開示に向けたコミットメントは得られませんでした。

上記の対話を踏まえ、更なる情報開示に期待し、今回の株主提案に賛成いたしました。

AIリスク管理の透明性向上に期待し、引き続き、同社と対話を行って参ります。

※abrnd社とは外国株式パッシブ運用のステュワードシップ活動で協働しており、海外企業との対話はabrnd社に委託しております。上記もabrnd社に委託した対話の事例です。

以上